

第10編 水産港湾空港部

水産課

1 水産業の概要

(1) 水産業の概要

釧路市の水産業は、道東太平洋沖の良好な回遊魚の漁場に恵まれ、全国でも有数の水揚量を誇っている。昭和54年から平成3年までの13年間連続水揚量日本一を記録するなど、市の基幹産業の一つとして地域経済に大きく貢献してきた。しかしながら、イワシ・サンマなど主力であった水産資源の激減により、平成4年以降、水揚量は減少傾向となっている。

このほか、国際的な漁業規制、燃油の高騰、漁業就労者の減少など厳しい状況が続く中、漁協が取り組むシシャモ、マツカワ、ハタハタ、ワカサギ、コンブなどの増養殖事業へ支援し、水産資源の維持増大を図るとともに、沿岸漁業の生産拠点漁港である千代ノ浦・桂恋の両漁港の整備を進めている。

水産加工業においては、釧路市水産加工振興センターが中心となり、商品開発、需要開拓、人材育成に取り組み、加工業界の体質強化を図るとともに、釧路産水産物の消費拡大に努めている。

市設魚揚場施設については、市場間競争力の強化対策として、高鮮度付加価値向上のための高度衛生管理設備の整備、拡充を図っている。

また、平成14年度より開始された調査捕鯨を機に、持続的捕鯨の再開を目指し、鯨食文化の普及拡大などに取り組むくじらのまちづくりを推進している。

2 漁獲取扱高（暦年取扱）

(1) 釧路港漁獲取扱高

区 分	取 扱 数 量 (トン)	取 扱 金 額 (千円)
平成27年	114,977	12,142,655
平成28年	114,207	10,099,229
平成29年	139,678	10,203,667

(2) 内水面漁獲取扱高 29年度 取扱数量13.4トン 取扱金額10,142千円

3 平成29年取扱高内訳（暦年取扱）

魚 種	数量 (トン)	率 (%)	金額 (千円)	率 (%)
スケトウダラ	41,087	29.42	2,165,141	21.22
サケ・マス	79	0.05	51,109	0.50
マダラ	7,404	5.30	1,918,351	18.80
サンマ	2,740	1.96	826,415	8.10
カレイ類	665	0.48	225,402	2.21
イカ	45	0.03	13,887	0.14
サバ	7,653	5.48	659,566	6.46
イワシ	76,793	54.98	3,170,909	31.08
その他	3,212	2.30	1,172,887	11.49
計	139,678	100	10,203,667	100

4 平成29年市場取扱量・取扱額全国ベスト10（暦年）

(数量：千t、金額：億円)

区 分	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁港名	銚子	釧路	焼津	長崎	境港	石巻	八戸	枕崎	松浦	気仙沼
数量	280	140	137	136	128	113	100	93	88	74
漁港名	焼津	福岡	長崎	銚子	根室	三崎	石巻	境港	八戸	枕崎
金額	500	450	354	279	229	223	208	206	200	194

※釧路：金額18位（102億円）

5 現有漁船勢力

(平成27年12月末現在)

～3 t	3～5 t	5～10 t	10～30 t	30～50 t	50～100 t	100～200 t	200 t～
隻数	隻数	隻数	隻数	隻数	隻数	隻数	隻数
180	29	78	17	0	0	9	1
合計隻数							314隻

6 水産業協同組合の現況

組 合 名	組 合 員 数			備 考
	正	准	計	
釧路市漁業協同組合	48	8	56	平成29年12月末現在
釧路市東部漁業協同組合	113	15	128	〃
釧路機船漁業協同組合	16	10	26	〃
阿寒湖漁業協同組合	25	1	26	平成29年3月末現在
釧路市水産加工業協同組合	38	0	38	平成29年3月末現在

7 魚揚場

(1) 施設の概要

名 称	住 所	延べ面積 m ²	構 造
副 港 魚 揚 場	浜町3-15	9,048.36	鉄筋鉄骨2階
副 港 第 2 魚 揚 場	〃	2,302.40	鉄筋鉄骨平屋一部2階建
副 港 第 3 魚 揚 場	〃	1,712.02	鉄筋コンクリート平屋建
副 港 第 6 魚 揚 場 (新漁港埠頭東側荷捌所)	浜町3-18	4,888.25	鉄筋鉄骨コンクリート平屋建
副 港 第 7 魚 揚 場 (新漁港埠頭南側荷捌所)	〃	3,301.48	鉄筋鉄骨コンクリート平屋建
セリ・入札場及び 市場管理事務所	〃	3,376.73	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造3階建
くしろ水産センター (総合管理センター)	〃	2,476.74	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造5階建

(2) 使用料

(金額:千円、税込)

区 分	料率・額	27年度	28年度	29年度
揚場使用料	取扱高の 6.3/1,000	74,167	65,904	60,818
貸室使用料	m ² 当たり月額 220円、760円他	11,233	11,374	11,394

8 市内加工施設能力

(平成28年12月現在)

業 種	工場数	加 工 能 力 等			
缶詰工場	2	11ライン			
製氷・冷凍・冷蔵工場	39	製氷	337 t / 日	貯氷	16,920 t
		凍結	902 t / 日	冷蔵	105,509 t
冷凍すりみ工場	2	製品	85.0 t / 日		
練製品工場	2	製品	1.2 t / 日		
水産飼料工場	3	原魚処理	1,850 t / 日	製品	283 t / 日
一般加工場	51				

※釧路白糖工業団地含む

※複数業種兼業企業は重複計上している

9 水産団地の状況

(平成28年12月現在)

区 分	大楽毛水産加工団地				釧路白糖工業団地			
面 積	363,484㎡				374,330㎡			
入居工場数	水産飼肥料	3	冷凍冷蔵	2	冷凍すりみ	1	一般加工	6
	魚体前処理	5	一般加工	5	缶詰	1	水産飼肥料	1
	計 15 (11企業)				計 9 (6企業)			

※大楽毛水産加工団地及び釧路白糖工業団地の入居工場数については水産関係企業分

※複数業種兼業企業は重複計上している

10 水産業の振興

(1) 漁業振興

ア 経営安定対策事業

区 分	目 的	29年度実績見込等	
漁業近代化資金 利子補給	漁業近代化資金融法に基づく、融資機関への利子補給金（利子補給率上限1%）	36件	207千円
漁業経営健全化促進資金 利子補給	融資機関に対する利子補給金（利子補給率0.26%）	10件	60千円

イ 生産基盤整備事業

区 分	内 容	事業主体	29年度実績見込
雑海藻駆除事業	底質改善によるコンブ藻場の再活性化 (水産基盤整備) 4.00 ha (市単) 8.00 ha	釧路市（水産基盤整備） 釧路市東部漁業協同組合	21,120千円
ヒトデ駆除事業	有害生物であるヒトデの駆除	釧路市漁業協同組合 釧路市東部漁業協同組合	180千円
水産生産基盤整備事業	北海道が実施する桂恋漁港の漁港施設整備の地元負担金	北海道	2,602千円

ウ 消費拡大事業

区 分	内 容	事業主体	29年度実績見込
コンブ加工品 需給安定対策事業	釧路産コンブの消費拡大対策 ・コンブ加工製品開発 ・販路拡大のための消費宣伝活動	釧路市東部漁業協同組合	2,100千円
コンブ漁業効率化 推進事業	昆布小型選別機を導入し、作業効率の大幅な向上と一定水準を保った生産出荷体制の構築を図る。	釧路市東部漁業協同組合	5,850千円
高度衛生管理 施設整備事業	水産加工・流通促進のための機器を整備することで衛生管	釧路機船漁業協同組合	841千円

	理の向上を図り、流通拠点機能を高める。		
沖合底曳網漁業水産物加工品開発普及支援事業	沖底漁業で漁獲される水産物で未・低利用魚種の加工品開発を行い、消費拡大を図る。	釧路機船漁業協同組合	1,805千円
内水面漁業水産物加工・販売施設整備事業	加工場内の冷凍設備等の機能強化を図り、生産性の向上や新たな加工品開発を行い、消費拡大の体制を構築することで、阿寒湖地域全体の関連産業の活性化を図る。	阿寒湖漁業協同組合	7,124千円

エ 増養殖事業

区分	内容	事業主体	29年度実績見込
ウニ資源増大対策事業	人工種苗放流、生息適地への移殖	釧路市漁業協同組合 (代表組合)	1,800千円
ホッキ貝資源増大対策事業	若齢貝の沖合への放流	釧路市漁業協同組合 (代表組合)	1,500千円
シシヤモふ化事業	親魚捕獲、育成管理	釧路市漁業協同組合 (代表組合)	3,000千円
マツカワ資源増大対策事業	種苗放流の継続的実施 (購入前に種苗が大量斃死したため、29年度については放流事業中止)	釧路市漁業協同組合 釧路市東部漁業協同組合 釧路機船漁業協同組合	0千円
沖合資源増大実験事業	ハタハタの種苗生産・中間育成・放流等	釧路機船漁業協同組合	2,400千円
水産協調型施設利用増養殖事業	水産協調型施設を利用した水産資源の生育状況等の調査と実証実験	釧路市漁業協同組合	207千円
釧路さけます増殖協力会運営費補助	密漁取締、河川改修現場パトロール、稚魚降河調査、稚魚放流事業等	釧路さけます増殖協力会	500千円
ワカサギ等養殖事業	ワカサギの採卵、孵化放流、アメマス・ニジマスなどの種苗放流等	阿寒湖漁業協同組合	1,240千円
シシヤモ親魚捕獲機器整備事業	シシヤモ親魚捕獲用機器の整備	釧路市漁業協同組合	300千円

(2) 水産加工業の振興

ア 加工技術と流通対策

(ア) 加工技術等支援の推進

地元水産物を活用した商品開発及び技術指導、販路開拓やブランド化へ向けての支援、食品分析サービスや衛生・表示指導、人材養成に係る講演会の実施

(イ) 魚食普及宣伝への協力

地元水産物の消費拡大を促進するため「釧路地域おさかな普及協議会」が行う魚食啓発事業への参加及び指導助成

(ウ) 水産加工リーディングビューロー形成促進事業の実施

地場水産加工品の産地ブランド確立推進を目的に、広報宣伝・消費者ニーズ収集活動への指導助

- 成、及び各種水産関連団体などとの連携強化
- イ 水産加工団地の整備
 - 釧白工業団地第一工区及び大楽毛水産加工団地の基盤整備
- ウ 経営安定対策
 - 「水産加工経営改善促進資金融通助成事業」の取扱いについて、北海道・金融機関と協力した業界指導
- エ 水産加工統計の取りまとめ
 - 水産加工品生産量、設備能力、加工従業員数等の実態調査の実施
- オ 水産加工公害の防止指導
 - 水産加工廃水を適正に処理するための共同汚水処理の推進及び水産廃棄物の有効活用

11 水揚げの維持増大

- (1) 釧路港への水揚げ促進対策
 - ア 外来船誘致対策の拡充
 - (7) 福利厚生としてシャワー室の利用、無料貸自転車の配置
 - イ 輸入等原魚確保対策に伴う受入体制の整備（保税蔵置場の管理運営）
 - ウ 各種助成の効率的な実施（主な助成は、船舶給電、給水、福利厚生事業補助等）
 - エ 大型漁船の休養・仕込み、修理に伴う係留岸壁確保のための商船代理店等関係者との調整
- (2) 魚揚場施設の整備
 - ア 荷さばき動線の確保や、施設の衛生面の向上を図るための魚揚場施設の整備
 - イ 魚揚場施設、設備の機能維持のためのトラックスケール等各種設備の保守点検
 - ウ 高鮮度付加価値向上のための衛生管理設備等の整備

12 くじらのまちづくり推進事業

平成14年度より釧路港を基地港として鯨類捕獲調査が実施され、調査副産物としての鯨肉等を活用した「くじらの街 釧路」のPRと、商業捕鯨再開に向けた様々な取り組みを「釧路くじら協議会」と連携し、展開している。

- (1) 釧路沖鯨類科学調査へ協力
- (2) 学校給食鯨肉提供事業
- (3) 捕鯨の伝統と食文化を守る会への参加（協力：釧路地域おさかな普及協議会）
- (4) 第22回釧路Oh!!さかなまつりへの出店物販
- (5) くじら月間イベントの開催
 - ア 鯨肉普及キャンペーン（共催：釧路地域おさかな普及協議会）
 - イ くじら祭り&くしろの鯨 味めぐりの開催
- (6) 全国鯨フォーラム2017太地への参加
- (7) 啓発グッズ等を活用した「くじらの街 釧路」のPR活動

13 漁業後継者対策事業

- (1) 漁業後継者育成事業

市内の漁業後継者によって構成される「釧路市漁業後継者連絡協議会」と連携し、各種事業に参加するとともに、次代の釧路市漁業を担う者として必要な水産知識、技術の習得と相互研さんや漁業者と消費者等との交流・連携事業への支援を行っている。

 - ア 岸壁清掃事業
 - イ 消費拡大・交流宣伝事業
 - (7) 「子供お魚まつり」への参加（網はずし体験の実施）
 - (4) 「食べる・たいせつフェスティバル2017in 釧路」への参加（網はずし体験の実施）
 - (5) 「くしろ水産食品まつり」への参加（タッチ水槽の設置、魚介類の展示）

(2) 漁業後継者就職支援事業

- ア 青年漁業者の漁業関連資格取得等への支援
- イ 北海道立漁業研修所への就学支援

14 魚食普及拡大事業

- (1) 小学校等での料理教室の開催（7回）
- (2) 「夏休み親子水産加工体験教室」共催（釧路水産加工業振興協議会連携事業）
- (3) サバ普及イベントの開催
- (4) 「くしろ水産食品まつり」への参加

15 くしろプライド釧魚事業

釧路で水揚げされる水産物の中から、生産者が自信と誇りを持って、特に勧める「旬」の魚を「プライド釧魚（センギョ）」と設定し、くしろプライド釧魚推進委員会によるPR事業を行っている。

- (1) くしろプライド釧魚食べられるお店買えるお店マップ作成
- (2) プライド釧魚PRグッズ作成・配布
- (3) イベントでのプライド釧魚PR
 - ア 大阪観光物産展
 - イ 道の駅摩周温泉「釧路海の幸PRフェア」
 - ウ 観光立国ショーケース選定都市食文化交流イベント
 - エ くしろ物産まつり
 - オ くしろ水産食品まつり

16 釧路市千代ノ浦マリンパーク

釧路市千代ノ浦マリンパークは、海と漁業とのふれあいをコンセプトに整備を行い、園内には、滝や水路に海水が流れる親水広場をはじめ多目的広場、遊具広場、休憩棟（バーベキューコーナー）、釣り護岸などを配置し、多くの市民や観光客に親しまれている。

また、隣接する千代ノ浦漁港には漁船が係留され、釧路前浜の魚介類が水揚げされることから、漁業への関心も養える施設となっている。

総工費	約6億5,000万円
事業期間	平成8年度～平成19年度 (平成15年十勝沖地震により2年間の工事延期)
全面オープン	平成20年6月
主な施設	親水施設（擬岩山、水路、園路） 平成19年完成 遊具広場 平成19年完成 休憩施設（バーベキューコーナー） 平成12年完成 トイレ 平成11年完成 釣り護岸（北海道所管施設） 平成11年完成

港湾空港振興課・港湾計画課

1 釧路港概要

(1) 港湾整備

釧路港は、明治32年8月4日に開港し、平成29年に開港118年を迎えた。

我が国の食料基地である東北海道一円にまたがる背後圏と豊かな漁場を有し、地域の暮らしや産業はもとより、我が国の食料供給を支える重要港湾である。

戦後復興の日本経済の拡大とともに取扱い貨物が増大し、従来の釧路川河口に広がる東港区に加え、新釧路川以西に展開する西港区へと開発整備が進められた。近年では、東北海道の物流拠点港として、北海道で2番目となる24時間フルオープン化の実施や、動物検疫港に指定されており、また、SOLA S条約の改正に伴い、外貨貨物取扱い岸壁において外周柵等の整備を行い、港湾保安においても万全の体勢を整えている。また、昭和57年7月にはアメリカ合衆国アラスカ州のソード港と、59年11月にはルイジアナ州のニューオリンズ港と姉妹港の提携をするなど、経済、文化両面にわたり国際貿易港として着実に発展している。

東港区は、中心市街地と隣接しており、釧路フィッシャーマンズワープ計画を基に、MOOや釧路市観光国際交流センター等の施設が整備され、市民や観光客の憩いの場として親しまれている。一方、釧路地域は地震の多発地帯であることから、災害時における市民生活の安心・安全を確保するとともに、近年のクルーズ需要の増加に対応した賑わいの創出と中心市街地の活性化を図ることを目的とした耐震・旅客船岸壁が平成23年3月に完成し、市の中心市街地により近い位置で50,000GT級の旅客船の入港が可能となった。さらに、平成24年3月、この耐震・旅客船岸壁の背後に、旅客船の歓送迎や様々な市民イベントの利用に対応する幸町緑地の整備が完了したことで、「耐震・旅客船ターミナル」としての整備が完了し、地域の防災と賑わい拠点の形成が期待されている。

漁業用施設の整備については、年々大型化する漁船への対応と漁獲物の円滑な流通を図るため昭和51年度より5カ年計画で新漁港埠頭（埠頭面積約9万平方メートル）の建設に着手し昭和55年度より供用開始した。

西港区は、釧路港における港湾物流の中心であり、これまでに第4埠頭南側までの整備が完了している。第3埠頭では速やかな荷役を担うため、平成21年にガントリークレーンを配備したコンテナターミナルが整備され、平成27年1月からは外貨コンテナ輸送の週2便化も実現した。低廉かつ効率的な物流を通じて、地域経済の活性化にも寄与している。また、各埠頭では、木材チップや石炭、穀物飼肥料等のバルク貨物が輸入され、それらを原材料として生産される紙・パルプ、農水産品、生乳等がユニットロード貨物として、全国各地へ移出されている。

平成23年5月に「国際バルク戦略港湾」として穀物の分野で選定されたことを受け、同年8月に「釧路港長期構想」を策定、12月には釧路港港湾計画の改訂を行った。平成26年度からは、「国際バルク戦略港湾」関連施設の整備を進め、平成27年3月には「臨海部産業エリア形成促進港」としての指定を受け、同年12月には民間事業者による臨海部産業エリアでの特定埠頭の運営の事業認定を行い、その民間事業者は平成28年9月から荷役機械の整備を始めた。また、平成28年2月には穀物の分野で初めてとなる「特定貨物輸入拠点港湾」の指定を受けた。

(2) 地理的状況

釧路港は北緯42度58分39秒、東経144度21分31秒(北防波堤南灯台)に位置し、釧路湿原を縦断する新釧路川をはさんで、東港区と西港区に分かれ、太平洋に面した重要港湾で、東北海道の海陸交通の要衝にあり、また、対米至近の利を得、外国貿易上での重要な位置を占めている。

(3) 港湾区域

釧路埼灯台（北緯42度58分10秒、東経144度22分24秒）から353度20メートルの地点から180度300メートルの地点まで引いた線、同地点から270度8,590メートルの地点まで引いた線、同地点から28度30分に引いた線及び陸岸により囲まれた海面並びに釧路川の雪裡橋下流の河川水面及び釧路町木場3丁目1番地1の木材整理水面並びに貯木水面。

2 主な港湾施設

港区	施設名	数量	摘要
東 区	外郭施設 灯台 岸壁	6,869m 5カ所 57バース 11,878m (12,553m)	防波堤、防潮堤、護岸 漁船バース、ドルフィン含む。()は 取付部分含む。
	上屋	7棟 14,566㎡ (市営のみ3棟9,479㎡)	延床面積
	倉庫	81棟	
	荷役機械	固定式 4基	
	貯炭場	3カ所	
	水面貯木場 タンク 船舶給水栓	1カ所 22基 36基	
西 区	外郭施設 灯台 岸壁	7,311m 2カ所 26バース 5,198m (6,004m)	防波堤、防潮堤、護岸 ドルフィン含む、()は取付部分含む
	上屋	10棟 40,993㎡	延床面積
	倉庫	52棟	
	荷役機械	固定式 2基 軌道走行式 4基	穀物荷役機械 2基 能力 各 400 t/H 石炭荷役機械 1基 能力 1,200 t/H ガントリークレーン 1基 能力 43.5t
	タンク	53基	
	船舶給水栓 穀物サイロ	64基 253基	
供用	タグボート	3隻	

3 港湾統計

(1) 入港船舶

(単位：隻、トン)

年	区分	商船		漁船	その他	合計
		外航	内航			
27	隻数	348	2,531	13,038	344	16,261
	総トン数	4,382,865	11,679,799	418,880	276,872	16,758,416
28	隻数	365	2,760	7,818	335	11,278
	総トン数	4,864,898	11,907,640	356,105	283,399	17,412,042
29	隻数	339	2,638	7,501	304	10,782
	総トン数	5,029,641	12,254,999	363,475	318,709	17,966,824

(2) 海上出入貨物 (平成29年)

(単位：トン)

区 分	輸 出	輸 入	移 出	移 入	出入合計
農 水 産 品	9,172	904,303	1,576,973	185,857	2,676,305
林 産 品	0	350,095	243,425	2,074	595,594
鉱 産 品	180	672,651	518,625	491,272	1,682,728
金属機械工業品	1,125	4,875	235,187	1,685,614	1,926,801
化 学 工 業 品	1,480	242,997	318,015	2,506,154	3,068,646
軽 工 業 品	24,925	44,542	2,357,017	33,856	2,460,340
雑 工 業 品	1,100	6,975	156,840	34,235	199,150
特 殊 品	165,671	413,264	113,952	2,207,819	2,900,706
分 類 不 能	0	0	0	0	0
合 計	203,653	2,639,702	5,520,034	7,146,881	15,510,270

4 施設の使用料 (平成30年5月1日現在)

岸 壁 使 用	船舶総トン数1トン (1けい留時)につき、次の表の区分に従い、それぞれ定める額			
	区 分	け い 留 時 間		
		12時間まで	12時間を超え 24時間まで	
	外国貿易船(関法第2条第1項第5号 に規定する船舶)	8円40銭	11円20銭	
	外国貿易船を除く船舶	9円7銭	12円9銭	
	備考 けい留時間が24時間を超える場合は、その超えるけい留時間につき、 12時間までごとに (12時間未満は12時間とする。)、次の区分に従い、 それぞれ定める額を加算する。 ア 外国貿易船 5円60銭 イ 外国貿易船を除く船舶 6円4銭			
物 揚 場 護 岸	ト ン 数	1隻1日につき	1隻1ヶ月につき	1隻1年につき
	10トン未満	450円	900円	9,000円
	20トン未満	750円	1,500円	15,000円
	30トン未満	1,000円	2,000円	20,000円
	50トン未満	1,500円	3,000円	30,000円
	100トン未満	3,000円	6,000円	60,000円
	200トン未満	4,000円	8,000円	80,000円
	200トン以上	5,500円	11,000円	110,000円
船 舶 給 水 施 設	1 m ³ ごとに		夏期 (4/1～11/30)	557円
			冬期 (12/1～3/31)	836円
ただし、総給水量が15立方メートル未満の場合には15立方メートルとみなす。				
港 湾 敷 地	一般使用	1 m ² ごとに	15日まで	1日 1円
			16日以降	1日 2円以内
	専用使用	1 m ² ごとに	1級地	月 150円以内
			2級地	月 50円以内
上 屋		1 m ²	月	570円
オ ー プ ン ヤ ー ド		1 m ²	月	75円
水 面 貯 木 場	整理水面使用		1 m ²	月 5円
	貯木水面使用		1 m ²	月 10円

廃油処理施設	ビ ル ジ	1 m ³ までごとに	2,300円
	コレクトオイル	1 m ³ までごとに	5,600円
木皮焼却施設	月 363,000円		
荷 役 機 械	穀物荷役機械（附帯施設を含む）		
	1 基	月	717,000円
	石炭荷役機械（附帯施設を含む）		
1 基	月	15,331,000円	
ガントリークレーン（附属設備を含む）			
1 基	1 時間	46,500円	
入 港 料	700総トン以上の船舶（総トン数1トンごとに）		
	外国貿易船（関税法第2条第1項第5号に規定する船舶）		2円16銭
	外国貿易船を除く船舶		1円16銭

※ 備 考

岸壁使用料を除く港湾施設使用料は、上記一覧表により、次の区分に従い、算定した額。

- 船舶給水施設使用料（外国貿易船を除く船舶に係るものに限る。）、上屋使用料、オープンヤード使用料、水面貯木場使用料、荷役機械使用料、物揚場護岸使用料、港湾敷地使用料（使用期間が1月未満のものに限る。）、廃油処理施設使用料及び木皮焼却施設使用料は、上記一覧表により算定した額に100分の108を乗じて得た額。
- 船舶給水施設使用料（外国貿易船に係るものに限る。）及び港湾敷地使用料（使用期間が1月以上のものに限る。）は、上記一覧表により算定した額。
- 目的外使用料は、相当する港湾施設使用料の額に100分の150を乗じて得た額。

5 釧路空港

釧路空港は、昭和36年7月に滑走路1,200m第2種空港として供用開始、その後、滑走路が1,800mに拡張され、昭和48年12月にはジェット旅客機が就航、平成元年12月には滑走路2,300mの供用開始、平成7年10月には就航率向上のため計器着陸システム（ILS）カテゴリーⅢaが供用開始された。また、平成8年7月には新空港ターミナルが供用開始される等、遂次機能向上が図られており、平成12年11月には大型ジェット機の就航を可能とする滑走路2,500m拡張工事が完成、平成18年4月には計器着陸システム（ILS）カテゴリーⅢbが供用開始されている。

路線面では、現在1日6便の東京線が運航しているほか、千歳線（日3便）、丘珠線（日4便）が運航し、また、7月～8月には伊丹線（日1便）が、8月1日から31日までの間は中部線（週3便）が季節運航しているのに加え、8月1日からPeach Aviationの関西線（日1便）が就航する（平成30年度新規事業）予定となっており、ひがし北海道における空の玄関口として重要な役割を担っている。また、国際線の就航については、釧根の官民合わせて79団体により設立された「釧路空港国際化推進協議会」が主体となり誘致・招聘活動を進めている。

(1) 空港の概要

ア 種 別	拠点空港（国管理空港）
イ 空 港 位 置	釧路市鶴丘2-2
ウ 敷 地 面 積	160ha
エ 着 陸 帯	2,620m×300m 等級B級
オ 滑 走 路	2,500m×45m（アスファルトコンクリート舗装）
カ 誘 導 路	3,051m×（23～30m）
キ 利 用 機 種	B767 B737 A320 DHC8 SAAB340B 等
ク 駐 車 場	756台
ケ 海上保安庁ヘリコプター基地	6,560m ²
コ 空港ターミナルビル	鉄骨造3階建 床面積 11,753m ²

(2) 路線別乗降客数

(単位:人)

区 分	東 京 日 6 便	千 歳 日 3 便	丘 珠 日 4 便	伊 丹 日 1 便 (7 ~ 8 月)	中部国際 週 3 便 (8 月)	その他	計
平成27年	515,750	96,570	53,849	10,576	3,591	5,436	685,772
平成28年	525,797	104,319	68,151	10,451	3,135	3,884	715,737
平成29年	553,210	101,506	72,835	9,657	3,556	1,515	742,279

6 港湾庁舎の概要

- (1) 所在地 釧路市西港1丁目100番地17
(2) 建設年月日 昭和59年10月18日
(3) 構造 鉄筋コンクリート3階建
(4) 延床面積 974㎡
(5) 建設費 189,331,000円

※港湾福利厚生協会との合築